

モバイル運転免許証の国際標準が発行されました

ジュネーブ(スイス) (2021年10月5日) – 待望の国際標準「ISO/IEC 18013-5:個人識別–モバイル運転免許証(mDL)」の発行について、8月21日に満場一致で可決され、以下のウェブサイト
に公開されました。<https://www.iso.org/standard/69084.html>. (有償)この標準の発行により、世界の運転免許証発行者が自信をもってmDLソリューションを普及させ、世界中の運転免許証検証者がmDLリーダを実装もしくは採用するための道のりを明らかにするものです。民間ビジネスや、連邦および州の省庁、そしてその他の政府発行のID文書を検証する公的機関が毎日素早く各種処理を承認できるようになります。mDLは、スマートフォンをかざしたりやQRコードを提示するなどの行為を通じた意思表示をもって、スマートフォンで管理するIDデータをユーザが管理できるようになります。

このmDL国際標準は、発行者、技術提供者、世界各国の当局(AAMVA、EReg、Austroads、African Tripartite)および各種処理の承認のためID文書を受け付けるビジネス関係者によりオープンな共創を通じた6年以上にわたる努力の結果であります。最盛期には四半期に1回の各大陸で会議が開催されていました。2020年から2021年にかけては完全にリモート開催となりました。

モバイルIDとしても利用可能なモバイル運転免許証の国際標準であるISO/IEC 18013-5は、スマートフォンの画面にカード券面を表示することの安全面の課題を克服し、多くの運転免許証保有者および運転免許証を受け付ける検証者に利益をもたらすものです。

- 過去2年間に各大陸で開催された数回のテストイベントの間に成熟された、**ID文書情報を共有するための包括的な世界標準**
- **複数の情報交換手段**。複数の情報交換方式をサポートするID情報を共有のための安全なデバイス間プロトコルにより、モバイル運転免許証保有者は自分の情報を共有するためにタッチもしくはスキャンすることを許容することができ、検証者は彼らの顧客対応プロセスに従ってモバイル運転免許証を素早く受け入れることができます。
- **物理カードより強化されたモバイル運転免許証のプライバシー保護**
 - **必要なデータのみ**の共有。データ最小化(たとえば、本人の生年月日より21歳以上であるという事実のみを共有する)が標準に組み込まれています。
 - **共有の合意**。モバイル運転免許証保有者が、免許証利用者により要求されたデータのみを、明示的に同意確認した上で提供することを許諾する管理方法
 - **スマートフォンはユーザの管理下のまま**。IDカードを手渡すのとは異なり、スマートフォンをユーザの手から離す必要が無い
 - **ユーザのデータが保存されたかが判る**。もし検証者がモバイル運転免許証保有者のデータを取得したい場合には、その要望がモバイル運転免許証保有者に明示的に告知される。検証者はデータ取得に伴う責任問題を回避できる。
 - **トラッキング対策**。どこでモバイル運転免許証が使用されたかを判別できるユニークな識別子が無い。
- **偽造が困難**。偽IDの作成に対する耐性を加えることにより、保管および共有されたデータは暗号的に偽造防止がなされています。検査者は容易に信憑性のチェックができます。
- **いろいろなモバイルID文書への応用**。標準で規定された仕組みは、どんなタイプのモバイルID文書もしくは車両登録証明のような文書に応用することができます。

- デバイスがネットに繋がってなくても動作します。モバイル運転免許証もしくは検査端末のいずれかがネットワークにつながってなくても、データはデバイス間で共有することができます。(オフライン)
- モバイル運転免許証保有者のプライバシーを最大限に保護する要件を規定したプライバシー別冊により、発行当局と検査者のためにプライバシーに関するベストプラクティスを提供します。

米国自動車管理者協会(AAMVA)会長のChrissy Nizerは、“この標準は、モバイル運転免許証保有者のプライバシーと安全性を確保しつつ、世界をまたいたモバイル運転免許証のセキュリティと互換性をサポートする必要なコンポーネントを提供するだろう”と語ります。

欧州車両・運転者登録当局協会(EReg)会長のServi Beckersは“この標準は、市民の利用拡大のために産業界と公的機関が協力した良い例となるだろう。それは、既に携帯電話をほぼあらゆることに利用できるようになった現代にモバイル運転免許証を加えたものだ。市民の視点から見た最大の利点は、さらなるプライバシー保護、最新の運転資格(およびそのための詭えたソリューション)、容易な旅行(国際標準)、そして運転免許証が使われる場面でのデジタルサービスにおける革新的なアイデアに対する余地である。”と語ります。

Austroradsを代表して、Chris Gohlは、ISO 18013-5モバイル運転免許証のための国際標準作業班を称賛したい。この標準は、世界中の認証情報の発行当局はもちろん、IDに関する国際的な産業界のリーダーによる強力なパートナーシップを通じて開発されたものである。この標準は、州や国境を越えて信頼され受容されるデジタル運転免許証のための基礎を作り上げるのみならず、その身元情報が、参加する当局の市民によりビジネス、産業界そして政府機関をまたぐ製品やサービスにシームレスにつながるために使用されることを可能とします。

”TSA(米国運輸保安庁)は、個人識別文書のためのISO標準は、さらに強大なセキュリティとプライバシーのための礎となると考えています。”と語るのは、TSA管理官のDavid Pekoskeです。”モバイル運転免許証のための新たな標準は前進のための大きな一歩であり、最終的にはすべての旅行者を対象とした更なる非接触かつ有効なスクリーニング作業を実現する助けとなるでしょう。”

ISOについて

ISOは、166か国の標準化団体からなる独立した非政府国際組織です。そのメンバー国を通じて、専門家が集まって知識を共有し、革新的で世界を変革するソリューションを提供する自発的でコンセンサスを基にした市場につながる国際標準を開発しています。

ISO/IEC 18013-5はISOとIECの合同技術委員会であるISO/IEC JTC1 情報技術の第17分科委員会、個人識別のためのカードおよびセキュリティデバイスで開発されました。さらなる情報についてはwww.iso.orgをご参照ください。

お問い合わせ先

SC 17/WG 10 国際幹事

榊 純一

secretary@sc17wg10.com